

## 第8回将来企画委員会議事録

日時；2012年5月23日、18:30-19:30

場所；幕張メッセ国際会議場203号室

出席者；河上、塚本、橘、平賀、村上、赤坂、井上、中村、柳澤、榎並、大和田、阿部

(1) 2013年開催地；筑波大学で、地球化学会との同日開催ということで、9月を予定している。明日の評議員会に諮る(大和田)。

(2) 法人化；鉱物科学会のような小さな学会にとって、法人化によるこれといったメリットはあまりない(非営利の場合は、収益事業以外には非課税、法人名義で銀行口座を開設、契約を法人名義で締結など、マイナーなメリット)。一方、法人化しないデメリットは大きい(会費も課税、特別会計も問題、監査により個人が損金を負担など)。法人化申請のための膨大な労力・時間、費用(相談、定款作成などのための税理士、弁護士)、また法人化後、毎年の監査などでかかる10万円単位の費用など、ハードルは高い。いくつかの小規模学会では、いずれ法人化せねばならないという認識をしているものの、なかなか決断がつかないらしい。鉱物科学会でも、今後情報を収集しながら、一般社団法人かNPO法人の方向に動いていかざるを得ないかも知れない。一般社団法人化後、公益社団法人化するかどうかとも検討の余地がある。

(3) 財政；年会で黒字を出して、一般会計の収入を増やすのは今後はむずかしくなる可能性が高い(大学の部屋使用料など)。参加費の値上げも考えられるが、当面は値上げせず、赤字の場合は特別会計で対処すべき。昨年、会費の値上げを行ったので、一般会計のバランスがどうなるかは、1-3年様子を見る必要がある。

(4) 国際；Elementsは今年の1月号から参加。JMPSの論文紹介など、情報発信源として、どのくらい効果があるか見守る。原稿作りは鍵委員長と井上副委員長で実質行っており、2ヶ月に1回の原稿提出は、負担が大きい。会則上2年任期になっているが、様子を見て変更するのが望ましい。現在のところ、Elements記事とGKK記事の切り分けの必要はない。アジアで鉱物科学を発展させるには、AOGS(Asia Oceania Geosciences Society)を利用したセッション提案が考えられる。今後、要検討。

(5) アウトリーチ；年会開催直前に学生用のレクチャーなどを考えていたが、YMO(鉱物科学若手の会)が、類似の会を9月の京都大学年会から開くということで、学会としては、これをサポートするのが適当である。まずは、YMOの活動を、学会のHPとGKKに載せる。また年会開催時のプログラムに、YMOのプログラムも載せることから始める。YMOには自由にやってもらい、学会は内容にはタッチしないのが原則。